



2006年4月23日（日）秩父のシンボル（？）武甲山に登りました。

1999年から2001年にかけて年2回行った、秩父札所巡りで訪れるたびに武甲山への想いを深め、2004年8月の「妙法ヶ岳ハイキング」の帰りに立ち寄った西武秩父駅前の仲見世通りで、銘酒“武甲正宗”片手に武甲山と記念撮影をするほどの憧れに…。ところが、武甲山は歩行時間6時間と私たちにはちょっと手ごわい存在でした。ここ数年、低山ハイキングで歩行時間も4時間未満がほとんど。そんな中、2004年10月の「高柄山ハイキング」は刺激的でした。そろそろそういうハイキングでも…、武甲山に行こう！ガイドブックをよく読むと、アプローチの2時間はタクシーを利用することでカットできることがわかりました。遠かった武甲山はグッと近い存在になったのです。

西武秩父駅からの石灰岩の採掘で荒々しい武甲山の裏側の登山道は、山頂に祀られている御獄神社への表参道となっているため、意外に歩きやすくちょっと拍子抜けといった感じがあります。しかし、山頂から削られた斜面を見下ろし、さらに秩父の街を眺めると、秩父の山々を制覇したような感激がありました。



迷うことなく武甲山

4月23日(日)雨は降っていませんでした。でも、天気予報は曇り時々雨。標高1295メートルの荒々しい武甲山に登るには、かなり不安な予報です。目覚めた時から大雨が降っていれば中止となったのでしょうか...。「今日は行きますか?」という電話ありません。「西武秩父駅に着く前に雨が降り出したら、予定を変更して、長瀬の岩畳と宝登山ハイキングにするかな」と家を出ました。

JR八王子駅には、小野さん、桜井さん、宮部(忠和)さん、横山さんが集まりました。天気の不安はあるものの誰も「今日は武甲山はどうか?」とは言いません。みんな武甲山へまっしぐらで、枝道を考えていたのは町田だけでした。

8時1分の八高線に乗り、東飯能駅で西武秩父線に乗り換え、9時45分西武秩父駅に到着しました。トイレを利用するため、仲見世に立ち寄ると、秩父の銘酒の試飲などの準備で朝からお祭りの雰囲気漂っています。この時期は、芝桜で有名な羊山公園を訪れる観光客で賑わうのです。なるほど、とタクシー乗り場へ。



タクシー利用で2時間カット

中型タクシーに5人で乗り込み、「横瀬駅側の武甲山の登山口まで」と運転手に告げました。羊山公園へ向かう観光客で賑わう駅前を通り、一駅手前の横瀬駅まで戻り、西武線の線路を渡り、南へ向かいます。電車を横瀬駅で降りなかったのは、タクシーが常駐していないからです。いくつかのセメント工場を抜けて車は進みます。「たとえ時間に余裕があってもここは歩きたくないな」工場地帯が終わり、山道になると登山客が駐車していったらしい車がちらほら、そして、タクシーも停車しました。料金は2700円、1人550円で



した。時刻は、10時25分。ガイドブックの歩行時間6時間20分のうち2時間をカットできたわけです。残り4時間20分ということは、食事時間を考慮すると、下山時刻は、15時30分くらいでしょうか。

神の山はちょっと退屈?

タクシーを降りた場所には、八丁目の丁目石と登山届の木箱がありました。この丁目石は、一の鳥居を一丁目とし、山頂が五十二丁目となっているそうです。歩き始めは、簡易舗装された道でしたが、10分ほどで終わり、本格的な(?)登山道になります。と言っても、傾斜は比較的緩やかで、呼吸も楽です。登山の目安になる丁目石は、全てが残っているわけではなく、数が飛び、かえって混乱を招くような気がします。しばらくすると、「武甲山 御獄神社 参道」と彫られた石碑があり、タクシーを降りて30分、休憩します。

ここから厳しくなるのかも...、と思ったのですが、道の感じは変化することなく淡々と歩きやすい杉林の中を少しずつ上って行きます。身体は楽なのですが、ちょっと退屈かもしれません。というのも、秩父のシンボルとしてのあの荒々しい岩肌を見せてそびえる印象とは全く異なる、静かな神の山だったのです。幸か不幸か、この山全体が石灰岩でできていたため、セメントの材料として削られて、山頂は40メートル低くなり、山腹も痛々しい姿となりました。険しい岩山のように見える部分は、人間による自然破壊の結果なのでした。でも、秩父の人々にとって、武甲山を材料として発展したセメント事業が当時の暮らしを支えてくれたという思いもあるのです。そう言った意味でも神の山で秩父のシンボルに違いありません。



不思議な山頂

11時30分、ちょっとした広場があり「ここまで来たね あと60分」と書かれた標識を発見!そして、その横に新しい標識があり、「大杉の広場 1000m」「武甲山 1295.4m 約50分」となっていました。ここからも、さらに杉林は続き、しかも杉ばかりで、他の植物が見当たりません。緑色の葉も見当



たらなくなりました。杉の葉は、頭上はるか上で目に入らず、杉に寄生した苔が茶色の世界に色を加えている程度。杉の樹海の斜面をジグザグに登って行きますが、呼吸は楽です。山頂が近くなったのでしょうか、道は“階段コース”と“一般コース”に分かれました。もちろん右の“一般コース”を選びました。やがて、右前方奥、杉の木々の間からたくさんの石灰岩を遠くから覗くことができましたが、そこに近づくことはありませんでした。



杉の葉の緑色が目に入るようになり、杉以外の木々が見えてきたと思ったら広場に出ました。“ここが山頂か？”しかし、山頂を示す標識があり、さらに奥を指しています。歩いていくと古びた鳥居があり、その先に御獄神社がありました。山頂は、さらに奥の方で、金網で囲まれた展望台になっていました。ちょうどこの頃、雲の中にあり、霞んだ景色です。足元まで採掘場が迫り、ほぼ直角の急斜面となり、麓へと続いています。その周りにセメント工場があり、朝、タクシーで通過したあたりとわかります。その先に秩父市街地が広がり、羊山公園の芝桜がなんとか確認できます。狭くて混み合う展望台をあとにして、鳥居の前の広場で昼食としました。



行きはよいよい帰りは怖い？

13時、昼食を終え、記念撮影をして出発です。しばらくすると、“小持山・大持山”と“浦山口”の分岐があり、右方向の“浦山口”へ向かいます。上ってきた表参道とは様子が違う荒れた急斜面を慎重に下山していきます。表参道ではほとんどお目にかかれなかった石がごろごろしています。これがセメントの材料となる



石灰岩か...？気を抜けない下りですが、低木が多いため、明るく視界は良好でのどかな雰囲気包まれています。30分ほど急斜面を下ると、長者屋敷の頭という場所に到着し、休憩します。昔は、ここから山頂へ向かう別ルートがあったようですが、石灰岩の採掘により廃道となったようです。ここからしば





らくのんびりと尾根道を進みます。新緑のからまつ林と遅咲きの山桜の美しい景色が続きます。

浮き浮き気分の尾根道歩きが終わると、山腹を転がり落ちるように見える急斜面が待ちっていました。もちろん、道はジグザグに付いていますから転がり落ちることはありませんが...。やがて、水の音が聞こえてきて、斜面を下りきると小さな川にぶつかりました。川沿いの道を右へ歩いていく



と登山道は終了し、林道に変わりました。時刻は14時30分、山道が物足りない時は、つまらない林道歩きは退屈に感じるのですが、今回は違います。急斜面の緊張から開放され、やっとのんびりできるという安心感。



バスに賭けよう！

林道は舗装路に変わりしばらくすると、橋立堂に到着しました。ここは、秩父第28番札所で、小野さんと町田は2000年7月「第4回秩父札所巡り」で訪れました。暑い日でここの鍾乳洞が涼しくて気持ちよかったことを思い出します。「ちょっと寄っていきませんか？」の問いに「行きましょう」と答え

たのは桜井さんだけだったので却下されました。疲れましたよねえ。

浦山口駅に着いたのは、15時20分。次の電車は16時ちょうど。ここで40分も待つのは退屈すぎます。ここから駅員との押し問答が始まりました。「バスは？」「15時38分の西武秩父駅行きがありますが、先に秩父駅まで行ってから西武秩父駅に行きますから、到着は16時3分ですよ。それに渋滞などもありますからね」16時の電車は御花畑駅に何時に着くのですか？「16時7分です」この駅員は、なかなか会社に忠実な人らしく、どうしても秩父鉄道を利用してもらいたいらしいことがわかり、一か八かバスに賭けることにしました。バス停にいた地元の女性に秩父駅に向かう手前で西武秩父駅に最も近いバス停を教えてもらい、その通りにすると、西武秩父駅には16時前に着くことができたのです。しかも、退屈することなく。あとは、朝下見した仲見世で武甲山を眺めながら濁り酒で乾杯するだけ。つまみは秩父名物煮込みおでん。予定していた電車を数本見送り、十分酔いしれて秩父をあとにしました。





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
桜井利子	194-0001	東京都町田市つくし野 1-32-17 042-796-9591
宮部忠和	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
横山和明	195-0062	東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662

